

# 平成 29 年度 自己評価報告書

評価対象期間 自：平成 29 年 4 月 1 日  
至：平成 30 年 3 月 31 日  
評価基準日 平成 30 年 3 月 20 日

学校法人栗岡学園  
奈良リハビリテーション専門学校

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

解答責任者：副校長、理学療法学科学科長、理学療法学科教員、事務

## 教育分野 (以下に点検・評価する教育分野の番号を○で囲んでください。)

①リハビリ 2 看護

### 1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	人間性豊かな人材育成の取り組みと技術職の養成を目的とし、臨床場面を想定した技術を高める科目が多い。また、現状で必要とされている国家試験内容に即した講義も取り入れており、教育目標を反映している。さらに、理学療法士協会が示すコアカリキュラムに準拠するよう努めている。	実技修得のための授業時間を多く取り入れている。また、複数教員を導入して対応している。各学年の対応は、学生を取り巻く様々な環境の変化を細やかに捉え対応することを目的に2人体制を導入している。カリキュラムは概ねコアカリキュラムに沿っているものの、一部整備が必要な科目がある。	5 ④ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	カリキュラム変更時に未整備科目の対応を検討するとともに、指定規則ならびに、コアカリキュラムを見据えた全体的な調整が必要。また、個別の指導をさらに充実できるようにしたい。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	カリキュラムの準拠に重点を置いているが、現行カリキュラムの職場ニーズに即した見返しが必要である。	卒後研修の形で対応できるよう取り組みを進めている。また、将来、職場で求められるニーズを把握し学内講義に反映できるよう取り組んでいる。	5 4 ③ 2 1	就職先は病院が中心だが、今後の職域拡大に対する対応も必要となる。そして、卒後の現場におけるニーズの把握に努め、これを踏まえた教育を各科目に反映していく。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	基本的にはカリキュラム通りに進行しているが、現在時間配分の検討や見直しを進めている。	できるだけ学生が効率的に学習できるよう努力している。授業科目外の活動(補習など)に力を入れて取り組んでいる。	5 ④ 3 2 1	学生がより効率的に学習が進むよう科目の時間や単位の調整について検討を続ける。そして、カリキュラム変更時に全体的な調整を行い、理想とする進行を行えるよう努める。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	学生への授業予定の提示を目的とし、全科目作成している。	前・後期に学生に配布し活用できている。学生は各授業の学習内容の指標に用いている。教員は、各学年間で授業の進行に合わせた復習の取り組みに活用している。	5 4 3 2 1	今後も必要性に応じた改良を加えていながら、各期末に更新し、活用していく。内容の検討を続け、さらなる有効な活用方法を見出していきたい。
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	本校の教育目標を念頭に置き、コアカリキュラム準拠を基本として、3年ごとに見直している。本校の特徴である実技を多くする点に変更しない方向で見直していく。今後の見直しに備え、課題を整理しつつ、指定規則の変更に備え準備している。担当・作成者・変更時期の整備が必要である。	より教育目標を明確にするためカリキュラム・指定規則に対する役割分担の明確化や科目を分割することにより単位の修得がしやすくなった。また、単位認定もしやすくなった。	5 4 3 2 1	教職員全体で取り組み、見直しを行うための準備委員会を設立し、より良いカリキュラムの編成に向け鋭意対応していく。
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	国家試験や臨床実習に対応できるように、常に教員の連携のもと学生に必要かつ適切なものを考え採用している。	学生が講義を受けるにあたって、最適な教材、教科書が用意されている。また、講義にとどまらず、国家試験対策や臨床実習でも役立っている。新書が数多く出版される中、授業に最適なものを使用できるように常に検討している。	5 4 3 2 1	今後も継続的に教材や講義資料の吟味を行うとともに、教科書使用について学生への説明を十分行っていく。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	各科目で教育目標をシラバスに示しており、成績評価方法も開示したうえで、科目終了時に適宜試験を行っている。 実習に関しては、実習課題と成果表を参考に内部で評価している。	各試験の中で一定の教育効果があったかどうかを適正に判断している。 実習に関しては、より適正な評価スケールを検討していく。	5 4 3 2 1	各科目の目標設定を明確にし、より適正な成績評価を行うようにしていく。今後、客観的評価の必要性も検討していく。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	学生の理解度に合せた講義を柔軟に進めている。特に、授業内容が難しくより理解が必要な単元は、教授だけでなく、グループワークを取り入れ、学生の理解度を確認したうえで講義を進めている。また、教員が制作した教材を用いて講義を展開するなど柔軟に対応している。	学習面で悩んでいる学生に対しては、その部分を明確にして個別指導等で対策を立てるようにしている。 多くの学生は、時間をかければ理解が得られるため、セミナーや補習などで補っている。	⑤ 4 3 2 1	個別の指導時間を確保し、十分に学習指導をしていきたい。また、講義レベルを維持しつつ、学生の理解度が増す講義形式（参加型学習等）の両面からの講義構成を検討していく。
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	基礎的な学習の個別指導や放課後に自学自習する時間を持たせている。また、質問等も受け付けている。さらに、各学年の担任主導でテスト対策、補習、実技練習等を実施している。 新入学者には、一定の学力を保つことを目的に入学前課題を配布し学力の維持・向上に取り組んでもらっている。	1年生の早期から学力不足を補うための対策に取り組んでいる。まず、継続的な学習と学習スタイルを身につけるための朝の小テストの実施。続いて、定期試験対策や年度末の復習のための補講の実施。さらに学年が進むと、実技や臨床実習対策を行っている。また、臨床実習対策では、全教員が学生を担当しレポートの書き方や実技の個別指導を実施している。	⑤ 4 3 2 1	教務間で話し合い、学力向上のための方法・内容の検討を今後も継続していく。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	医療人としての社会性の向上のため、学校敷地内および周辺で全面禁煙の実施。また、あいさつ、授業中の態度、言葉遣い等を全教職員が意識し、気づいた点に関してその都度指導している。	医療人として自覚を高めていくことを目的に今後も指導をしていく。 実習中など学外でも意識できるよう、継続的に指導をしていく。	⑤ 4 3 2 1	医療の現場に出ていく際に必要最低限のマナーや躰けを身につけてもらうことを目的として、今後も継続的に全教職員で取り組んでいく。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
<p>11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか</p>	<p>教職員の研修会への参加や研究活動を実施している。 各学年にあった教育方法を研究するための話し合いを随時行っている。</p>	<p>実施した教育方法の効果測定を継続的に実施し、より効果的で効果の高い教育技術を研究し実践している。</p>	<p>5 (4) 3 2 1</p>	<p>教授法についての研修や最新知識の整理のため、テーマを決めたディスカッション形式の勉強会の機会を持つ。 それぞれが自己課題をもち研修・研究に取り組み、自己能力の研鑽に努めていく機会を増やせるような環境づくりを行う。</p>
<p>12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか</p>	<p>講義内容の検討・向上にむけ、授業アンケートを前期・後期で実施し、各担当教員は内容を確認し、自らの授業に反映させている。</p>	<p>授業アンケートを参考にしながら、適宜教育方法や教材の再考を行っている。その中でも、教員間の教育評価をより充実させる必要がある。</p>	<p>(5) 4 3 2 1</p>	<p>授業に学生の意見を取り入れるため、より具体的な感想・意見を記入してもらえるように「学生に記述欄」への記入を促していく。さらに、アンケート内容・方法の検討を続けていく。</p>

## 2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	学年の人数に見合った教室、実技室、ベッドは確保されている。しかし、一部設備について補修が必要なものもある。	個別対応が増えてきており、教室が不足する場合も出てきている。 補修が必要なものについては、必要に応じて整備を進めている。	5 (4) 3 2 1	補修箇所の調査・点検・報告・改善を継続して行っていく。
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	図書室は適切に開館している。 蔵書に関しては、公共図書館に比べ、専門的な図書は充実している。医療系雑誌も毎月定期購入し最新の学術を閲覧することができる。 卒業研究概論、臨床実習中に有効に活用できている。	校内 Wi-Fi 設置済み。 定期的に新書の検討ができるような仕組み作りが出来ている。	(5) 4 3 2 1	時間外でも希望があればできる限り書庫を開放し、有効に図書を活用できるようにする。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習室については、ベッドの数も十分にあり、自習として多学年が使用する状況でも利用できるが、一部の設備について補修が必要なものもある。	開校当初から使われている機材に関しては、老朽化がみられるものもある。最新の機材に関しては授業や研究で積極的に使用されている。	5 (4) 3 2 1	タイミングよく素早い更新及び修理の体制を整備する。
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	視聴覚機器は、ある程度新しいものが揃っている。情報機器についても必要なものは揃っている。しかし、インターネット環境、文献検索システムは改善していく必要がある。	日々新しい機器が出るので情報は得ているが、コスト面の負担を考え段階的に更新している。現存している機器に関しては、定期的なアップグレードや調整を行っている。	5 (4) 3 2 1	今後、優先度を確認し充実していく。使用の仕方に注意しながらも、講義に必要な物品に関しては点検・修理・買い替えを随時行っていく。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	学生にとって経済的な負担の少ない寮を保有しているが、室数に限りがあり希望者全員が入寮することが困難である。	保有する学生寮は限られているので、遠方からの学生には駅周辺の民間アパートを紹介するなど、学校として対応している。	5 4 (3) 2 1	学生が快適で有意義な学生生活を送れるよう、今後も学校として積極的に対応していく。
6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	体育館は関連学園の阪奈中央リハビリテーション専門学校所有のものを利用し、授業等で活用している。専用運動場は保有しており、有志を募ったソフトボール大会等で必要に応じて利用している。	体育館は、主に授業や式典に活用している。また、1・2年生の親睦や教員と学生の良好な関係を築くため、毎年6月頃球技大会を開催している。専用運動場では、同じ目的でソフトボールやサッカー等を有志で実施している。	5 4 (3) 2 1	授業時間との関係で時間がとりにくいが、可能な範囲でイベント等を企画し、他学年との交流・対人関係の形成を目的として利用を促していく。



### 3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	<p>現行の2人担任制は有効に機能し、学生を取り巻く様々な環境の変化に対応し、直ちに学生指導や面談を実施できる。学力不足の学生に対しては放課後の補習。留年生に対しての個別対応等多岐にわたる指導を実施できている。</p>	<p>2人担任制をとることで、個別での指導が行き届いており、基本的な対応はできている。しかしながら、学生自身の問題が複雑化しており、対応に苦慮することがある。今後は、2人担任制を主軸として、必要があれば多学年の担任の力を借りた取り組みも検討していきたい。</p>	<p>5 4 3 2 1</p>	<p>学生対応に有効に機能している2人担任制は継続しつつ、今後、複雑化する事務作業との両立が行えるよう、業務内容・量の整備とコントロールを検討していく。</p>
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	<p>学園全体を担当するカウンセラーがいるので必要に応じて対応している。主に、教員から学生にカウンセラーの必要性を促し、学生が承諾すれば学校がカウンセラーに連絡をとり実施する運びとなる。</p>	<p>臨床心理士と教員間で情報を共有し学生のニーズに対応できている。学生は教員ではなく臨床心理士だから相談できる内容もある。ただ、本校専属ではないため、利用の際は予約が必要である。</p>	<p>5 4 3 2 1</p>	<p>今後もニーズが増加すると思われるので、常駐時間の拡大を検討していく。</p>
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	<p>学生ラウンジがあり、学生主体で使用できるキッチンスペースや電子レンジ、トースター、ポット等があり、飲食が自由にできる。また、他学年の交流の場となっている。各階の廊下のフロアには、ソファを配置している。</p>	<p>教室以外に休憩スペースとして、学生ラウンジを使用している。多学年での利用が重なるときには混雑するが、多学年との交流できる機会となり、昼食用スペースとしても活用されている。</p>	<p>5 4 3 2 1</p>	<p>ラウンジには学生全員が座れるスペースがないため、教室も休憩スペースとして活用できるよう開放している。</p>

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	食事場所として、ラウンジと教室を利用している。売店はないが、自動販売機を設置している。駅に近く近隣にコンビニ・近商ストア等飲食物が購入しやすい環境であるため、売店の必要性はさほど感じない。	自動販売機を設置しているため、飲み物は購入できる。また、駅が近くコンビニ・スーパーが近距離にあり、特に問題はない。	5 (4) 3 2 1	学生ラウンジ・教室は、他学年が利用する場もあるので、整理整頓と清潔を心がけ適切に使用するよう学生にアナウンスをしていく。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	学校独自の特待生制度はないが、留年生に対する特別学費支援制度がある。この制度のおかげで、留年した学生が学費の工面に追われることなく、学業に専念できる環境を作れている。また、入学者家族割など独自のサポート制度がある。	企業からの奨学金がある。また、特別学費支援制度は、留年生に対する経済的な負担の支援にはなっていると感じている。	5 (4) 3 2 1	成績優秀者に対する奨学金制度や特待生制度等を検討している。
6. その他				

#### 4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

教員： マークシートを用いたデータ分析と学生への速やかで具体的なフィードバックが実現でき、試験の採点と採点後の対応に大いに貢献できた。

また、本校教員に、認定理学療法士が多数在籍していることが本校の強みであり、教育水準の高度化と学生からの信頼感の獲得に繋がっている。